

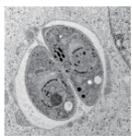
母子感染症で悲しむ母子を無くしたい!

妊娠中に「トキソプラズマ」と「サイトメガロウイルス」に感染すると、母体の症状は軽微であっても、胎児に重篤な母子感染症を引き起こす恐れがあります。あまり知られていない病気ですが、患者数は多く決して珍しい病気ではありません。ワクチンはありませんが、生活上の注意を守ることによって妊婦の感染リスクを減らせるため、トーチの会では予防法を啓発しています。

多くの妊婦さんが知らない!!

妊娠中の感染が怖い、トキソプラズマとサイトメガロウイルス

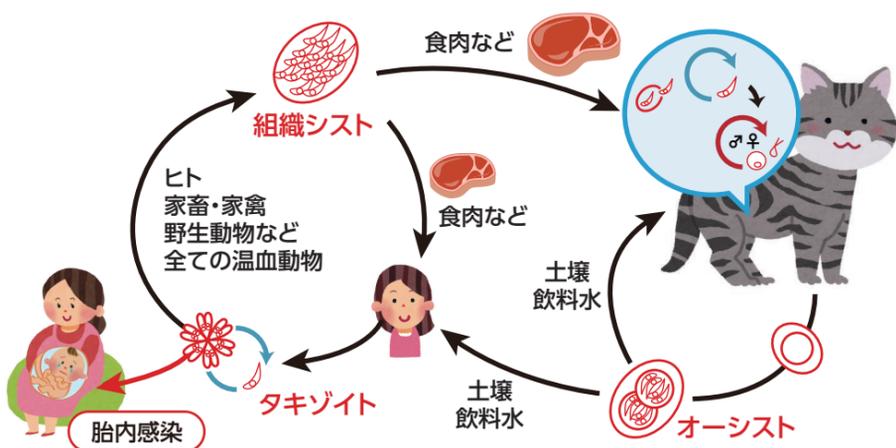
トキソプラズマに感染しないためには?



- ・生肉や加熱不十分な肉※を食べない。
- ・土いじりを避ける/生水・井戸水は避ける
- ・猫の糞に触らない/新しく猫を飼わない



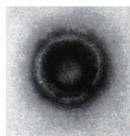
トキソプラズマの感染経路



トキソプラズマの重要な感染経路は非加熱の肉、土、感染したばかりのネコの糞。汚染された水やサラダに付着したオーシストから感染した例もある。

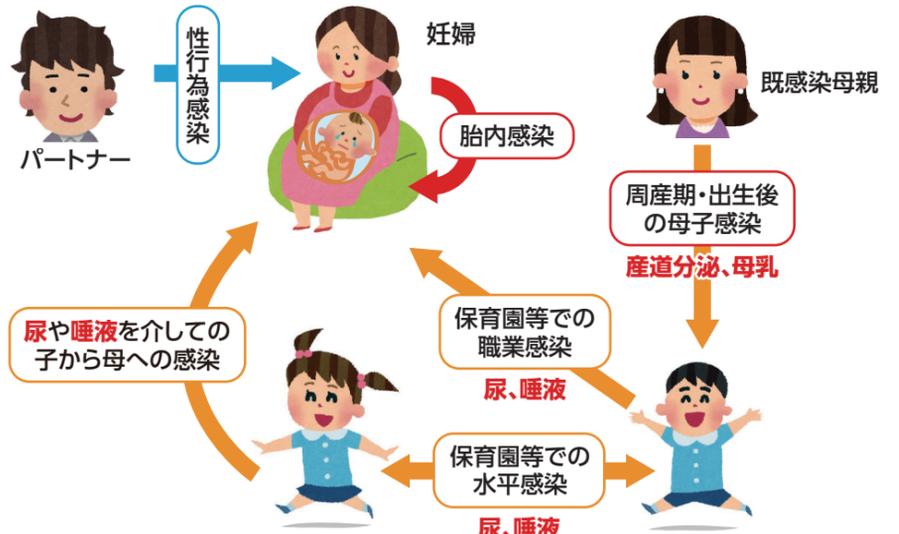
※ 生ハム、ローストビーフ、レアステーキ、肉のパテ(火を通してないパテ、加熱不十分なパテ)、生サラミ、生ベーコン、ユッケ、馬刺し、鳥刺し、鹿刺し、エゾシカのレアステーキ、鯨刺し、ヤギ刺し、加熱が不十分なジビエ(野生の鳥獣)料理、等

サイトメガロウイルスに感染しないためには?



- ・子供のだ液・尿に注意し、石鹸でしっかり手を洗う
- ・子供の食べ残しを食べない、食器を共有しない
- ・性行為の際は、コンドームを使用する

CMV(サイトメガロウイルス)の感染経路



CMVの重要な感染経路は、子どもの尿や唾液との「接触感染」。(飛沫感染ではない) 上の子や小さな子と関わる時、キス、おむつ替えや食事介助の際などに注意する。

トキソプラズマについて <https://toxocmv.org/toxo/> 猫とトキソプラズマについて <https://toxocmv.org/contribution/cat-toxo/cat/> サイトメガロウイルスについて <https://toxocmv.org/cmV/>

母子感染症を防ぐ為にできること

妊娠前・妊娠中	不妊外来等	教育・啓発
	助産師外来	
産科	抗体検査	胎児感染の診察 早期発見・早期治療
	新生児スクリーニング実施 早期発見・早期治療	
生後	小児科 耳鼻科 眼科	遅発性・進行性の症状診察 早期発見・早期治療

- 確定診断ができる時期が限られている
⇒先天性CMV感染症の確定診断には、生後3週間以内の新生児の尿が必要。2018年より尿検査(核酸増幅法)が保険収載された。生後3週間を過ぎると、臍帯やガスリール紙血を用いて調べることができ、特殊な検査であり感度も落ちる。
- 特異的治療ができる時期が決まっている
(例)トキソプラズマは妊娠中から投薬治療が可能。生後すぐから約一年半投薬治療を続ける。/CMVは出生後2ヶ月以内でないの特異的治療が原則として行えない。
- 薬を手に入れるのに時間がかかるものや、経済的負担が大きいものがある
⇒個人輸入する必要がある国内にない治療薬の使用や、保険収載されていない治療薬の使用があるため、その準備期間が必要。

妊娠中の感染予防のための注意事項 11か条

1. 石鹸と流水で、しっかり手を洗ってください。
2. 小さな子どもとフォークやコップなどの食器を共有したり、食べ残しを食べない。
3. 肉は、しっかりと中心部まで加熱してください。
4. 殺菌されていないミルクや、それらから作られた乳製品は避けましょう。
5. 汚れたネコのトイレに触れたり、掃除をするのはやめましょう。
6. げっ歯類(ネズミの仲間たち)やそれらの排泄物(尿、糞)に触れないようにしましょう。
7. 妊娠中の性行為の際には、コンドームを使いましょう。
8. 母子感染症の原因となる感染症について検査しましょう。
9. B群溶血性レンサ球菌の保菌者であるか検査してもらいましょう。
10. 感染症から自分と胎児の身を守るために、妊娠前にワクチンを打ちましょう。
11. 感染している人との接触を避けましょう。

トーチの会の活動

会員交流会のほか、積極的に講演会出演、メディア出演を行いトキソプラズマ、CMVの一般への認知に努めています。



講演会・ブース展示

産婦人科、小児科関連の学会や自治体主催の母子感染をテーマとした企画に、演者として招いていただき、当事者の視点から、母子感染症予防啓発の必要性を訴えています。



絵本での啓発

先天性CMV感染症による障害を持つ少女と、その愛犬の日常をつづる実話物語。小説版と、絵本版、どちらも販売中。小説版には森内浩幸先生と宋美玄先生の解説付き。



パンフレットのご案内

当会 HPから無料でダウンロードできます。配布用に多数必要な場合は、有料で印刷したものをお付けしています。産婦人科での配布のほか、母親学級等での配布もされています。

当事者 共通の願い

知識があれば感染を防げる可能性があった

NHKの報道を見て、上の子の食べ残しの整理などのお世話でCMVに感染することが多いことを初めて知りました。これには、私も心当たりは大有りでした。知っていれば予防できたかもしれません。

体験談 No.6 ひびきさん

なぜ母子感染してしまったのか... この病気を知る機会がなかったこと、知識がなかったことがとても悔やまれ、知らなかった自分を責めました。

体験談 No.5 みくママさん

妊娠中は食事には気を付けていましたが、妊婦は生肉は絶対食べてはいけないとは知りませんでした。知っていれば防げていたことだったのかもかもしれません。

体験談 No.10 iakさん

先天性感染児を出産した母親は、妊娠中には母子感染症のことを知らなかったと言います。そして、わが子が感染して初めてその感染症の存在や感染経路を知り、「知っていれば予防できたかもしれない...」という後悔や自責の念に苦しんでいます。

HP「体験談」ページで当事者の体験談を閲覧できます。
⇒ <https://toxocmv.org/category/story/>